解説

推進工事に携わる者として

石川　巧太（いしかわ　こうた）
アイレック技建㈱
非開削推進事業本部第二技術部
（推進工事技士）

1　はじめに

私は小口径管推進工法であるエースモール工法や改築推進工法のリバースエース工法という推進装置のレンタル会社に勤務しており、その整備や開発・改良業務等に携わっております。

現在、多くのご用命をいただいているエースモール工法ですが、その歴史は古く、1980年代の高耐荷力管推進工法の技術革新ラッシュ時に実用化された工法のひとつです。

自分が生まれる前からある工法の完成度の高さに脱帽しつつも、なぜこのような形状なのか、なぜこの部品を採用しているのか等、疑問に思うことが沢山あります。そういった時は、先輩に聞いたり書庫の奥の方に眠っている手書きの資料を見たりして、日々発見の毎日です。

写真－1　エースモール整備状況（筆者左）

2　推進工事技士取得の勉強を始めたきっかけ

私が推進工事に携わりはじめたのは約3年前です。その前は施工管理員として、舗装工事やコンクリート構造物の補修工事等、土木工事全般に広く携わっておりました。

当時は入社間もないこともあり、広く浅く仕事をこなしてきた私にとって、推進工事に特化したスペシャリストは、並大抵の努力ではなれないということを身にしみて分かりました。なぜかというと、スペシャリストには、土質や管材、工法、他にも書ききれないほど様々な知識を広く深く有する必要があるからです。

深く掘り下げていく点に関しては、日々の業務を通じて少しずつ学んでいくしかないと思い、前向きに業務に取り組んでいます。そして、推進工事に関係する幅広い知識に触れるという点に関しては「推進工事技士」という資格が一番手っ取り早いと思い、資格の勉強をはじめました。

特に推進業界には、推進工法体系（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）という先人達の知恵と知識が詰め込まれたテキストがあります。普段の読書として読むには内容も重さもヘビーな代物ですが、資格取得のためと思えば、大変参考になるテキストです。資格取得後も教科書になったり手引書になったり、たまに法令集になったりと使い道は多様です。

正直にいうと、私は資格が何よりも大事という考えには